

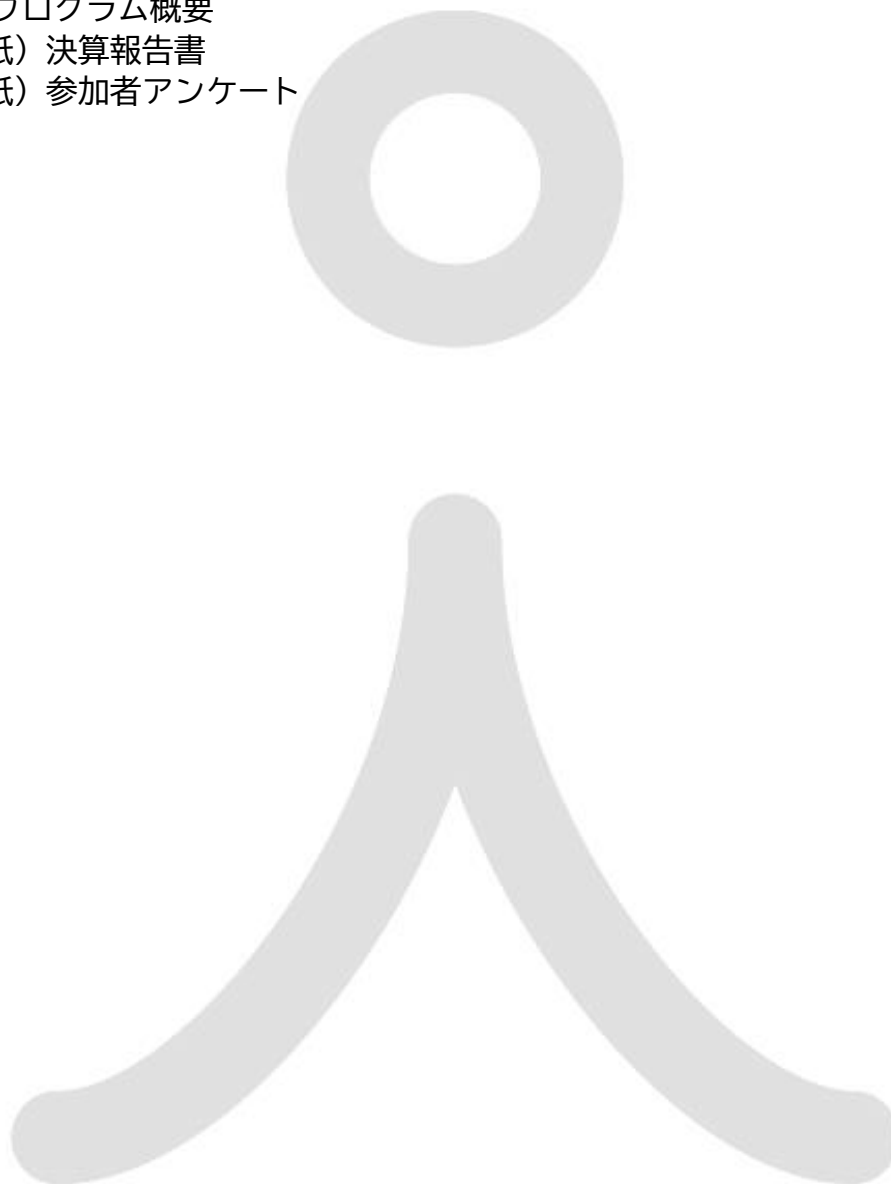
# つなぐ人 フォーラム

第 17 回つなぐ人フォーラム

実施報告書

## 人 目次

- ❖ 実行委員長挨拶
- ❖ 実施概要
- ❖ スケジュール
- ❖ 10分プレゼン概要
- ❖ 45分プログラム概要
- ❖ (別紙) 決算報告書
- ❖ (別紙) 参加者アンケート



## 人 実行委員長挨拶

第 17 回つなぐ人フォーラム 実行委員長

**岡田 英之**

しょむすび

皆さま、「第 17 回つなぐ人フォーラム」に多くの想いや言葉、そして心を寄せていただき、ご参加くださり、本当にありがとうございました。今回のフォーラムは 17 回目を迎え、これが一区切り（最後）の開催となりました。2008 年から清里・清泉寮を会場に、リアルで行ってきた「つなぐ人フォーラム」は、さまざまなジャンルで「つなぐ活動」をしている人たちが集う場です。ここでは思いもよらない化学反応が起こり、新たな可能性が生まれています。「つなぐ人フォーラム」は、これからの時代の“つなぐ”を模索する実験の場でもありました。

2021 年（第 13 回）からはオンラインに切り替え、コロナ時代の“つなぎ方”について語り合いました。「ずっと問い続けてもいい」「変わり続けても変容してもしなくてもいい」といった、不安定に見えますが、とてもあたたかい素敵な場はなかなかありません。これまでのフォーラムを支えてくださった皆様に、そして今回も素晴らしい場を実現するために尽力してくださった実行委員の皆様、ツナギストの皆様、参加者の皆様、キープ協会の皆様、さらにご協賛をいただいた J-Power 様と共にフォーラムを作り上げられたことに、心から感謝いたします。

本当に幸せな時間を積み重ねてくださり、ありがとうございました。「終わることは次につながること」と思っています。皆様と交わした貴重な意見やアイデアは、私たちの活動にとっても、各分野にとってもかけがえのない財産です。

これからも、それぞれのフィールドでのつながりを大切に、共に成長し続けられることを願っております。

最後になりましたが、これまでのご参加に感謝し、皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

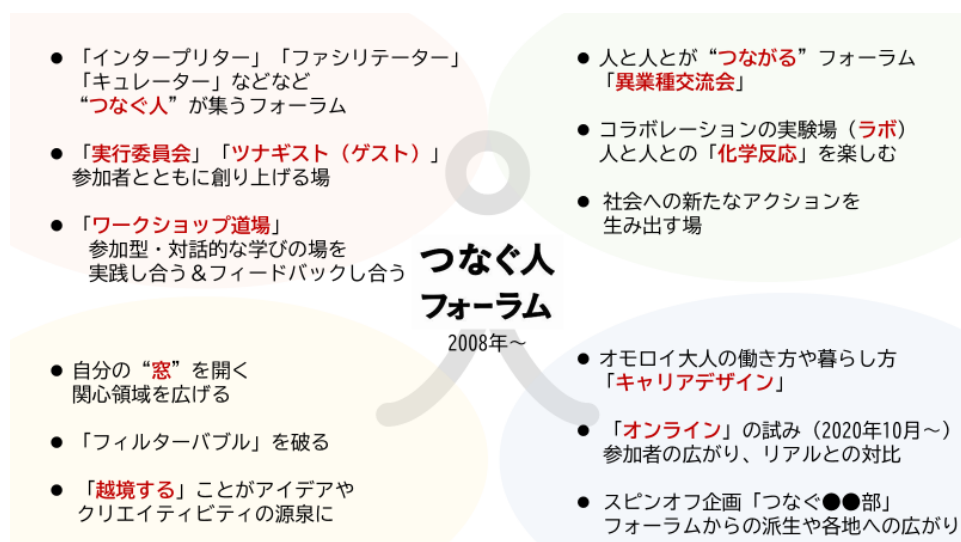


## 第17回つなぐ人フォーラム 実行委員長

### 関根 健吾

公益財団法人キープ協会

つなぐ人フォーラムは、インタープリターをはじめ様々な分野で「つなぐ」活動を行っている人が集い、新たなネットワークをつくり、それぞれの活動領域を広げていくことを目的に、清泉寮（公益財団法人キープ協会）を会場に、2008年からスタートしました。2020年からはオンラインに場を変えて継続してきましたが、社会における一定の役割を果たしたと捉えて、今回を持ちまして一区切りすることにしました。



上図は、つなぐ人フォーラムがどんな場だったのか？何を大事にしてきたか？を、簡単にまとめたものです。「化学反応」という言葉に象徴される分野や領域を“越境”するコラボレーションの試み、実行委員と事務局とで培ってきた運営ノウハウ、そして何にも代えがたいこの場で生まれた様々な出会いやつながり・・・、これらを一口に語ることは難しいですが、丁寧に反芻しつつ、これからの時代における「つなぐ人」の社会的役割を考え続けていきたいと思います。

長きにわたりご協賛くださった J-Power 電源開発株式会社様はもとより、つなぐ人フォーラムをこれまで共に作り、また支えてくださった、すべての皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 実施概要

■名 称：第 17 回つなぐ人フォーラム

■日 程

前々夜祭：2025 年 2 月 16 日（日） 20:00～22:00

前夜祭：2025 年 2 月 21 日（金） 20:00～22:00

メイン日：2025 年 2 月 22 日（土） 9:45～18:00

■会 場：

テレビ会議システム Zoom を用いたオンライン

■主 催：第 17 回つなぐ人フォーラム実行委員会 / 公益財団法人キープ協会

■協 賛：（敬称略）

J-POWER 電源開発株式会社

■後 援：（敬称略）

公益社団法人日本環境教育フォーラム

一般社団法人 日本環境教育学会

NPO 法人日本エコツーリズムセンター

NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)

NPO 法人自然体験活動推進協議会（CONE）

## ■つなぐ人フォーラムとは？

「つなぐ人フォーラム」は、さまざまなジャンルで「つなぐ活動」をしている人たちが集う場。

互いの経験や知恵を共有することで、現場で感じる壁を乗り越えるヒントや人脈が見つかります。

繰り広げられる数々のプレゼンテーションやワークショップから、新たなつながりが生まれます。

それをきっかけに、異なる分野で活動している人からヒントを得るだけでなく、それぞれの想いを掛け合わせた仕事がはじまることも。

そして、視野が広がり、全国に友達ができて、誰かの熱い思いにふれることでエネルギーがチャージされる・・・2008年から清里・清泉寮を会場に行ってきた「つなぐ人フォーラム」は今年で17回目。

第13回からはオンラインに切り替えて回数を重ねてきました。

今年度はオンラインでのイベントを実施しました。

実行委員・ツナギスト・参加者の全員が参加費を出し合い、費用をまかなうフラットな場であることも、このフォーラムの特徴の1つです。

## ■第17回つなぐ人フォーラム

「つなぐ人フォーラム」には、暮らしやすい世の中をつくるために活動する、実に様々な分野の人たちが集まります。「地域や街の人々をつなぐ活動」「（野外などで）自然と人をつなぐ活動」「（博物館などで）モノと人をつなぐ活動」「（サイエンスコミュニケーションなど）科学と人をつなぐ活動」「子どもや大人をめぐる多様な活動」などなど。

ほかにも、メディアを通じて、医療・福祉を通じて、建物・デザインを通じて、ワークショップを通じて、などなど・・・世代や立場を超えて、互いに学びあう雰囲気、挑戦する人を応援する空気感、背伸び不要の居心地の良さがあります。これが源泉となり、思いもよらない化学反応が起こり、新たな可能性を生み出しています。「つなぐ人フォーラム」は、これからの時代の“つなぐ”を模索する実験の場です。

■参加者数：別紙「決算報告書」参照

・計 83 名

■第 17 回つなぐ人フォーラム実行委員会

岡田 英之	しょむすび	※実行委員長
関根 健吾	(公財) キープ協会	※実行委員長
梅崎 靖志	風と土の自然学校	代表
大間 哲	B. P. プランニング	代表
小山 泰弘	長野県林業総合センター	
島津 和代	ふかふかキャリアデザイン研究所	
清水 厚志	Kleeblatt 株式会社	
高橋 真理子	星空工房アルリシャ	代表
林 浩二	千葉県立中央博物館	
杉山 有香音	まりもり web 制作	
平川 瑠菜	株式会社 BiotopGuild	
平原 由樹	うふふなミカン	代表
松田 佳代	フリーランス学芸員	
吉田 立	障害福祉施設の職員	

■事務局（公益財団法人キープ協会 環境教育事業部）

関根 健吾  
岡野 由美  
金原 伸一郎  
坂川 実基  
柳 弘之  
村井 孝一  
鈴木 駿輔  
山下 美夏

## スケジュール

### ■前々夜祭＜2025 年 2 月 16 日（日） 20:00～22:00＞

2つの会場（部屋）に分かれて、ツナギストや参加者による 10 分プレゼンテーションを行った。

その後は自由参加の交流会を行い、メインイベントを前に参加者間の交流を促した。

※各プレゼンテーションのタイトルをクリックすると動画（YouTube）が視聴できます

20:00 ～	たね部屋 オープニング		
	かぜ部屋	みず部屋	たね部屋 おしゃべり部屋
20:30 ～	働くを中断し人生と社会を 見つめ直すキャリアブレイク  北野 貴大 (一般社団法人 キャリアブレイク研究所代表)	文化で日本とアフリカを繋ぐ  菅谷 久美子 (横濱未来堂)	
21:00 ～	カラダと暮らしの、風通し  北原 辰也 (はったつやさん)	「あそぶ」「まなぶ」「つなぐ」 きっかけは公園から。  飛世 裕香 (庭音・お庭カウンセラー・マルシェ)	
21:30 ～	社会課題×広報 PR 会社の 10 期 に渡る社会実験の軌跡  こくぼ ひろし (ひとしずく株式会社)	現役部員が伝える！ 親しみやすい能楽の世界  中西 美緑 (関西学院大学)	
22:00 ～	たね部屋 以降、交流会 (自由参加)		



■前夜祭＜2025 年 2 月 21 日（金）20:00～22:00＞

2つの会場（部屋）に分かれて、ツナギストや参加者による10分プレゼンテーションを行った。  
その後は自由参加の交流会を行い、メインイベントを前に参加者間の交流を促した。

※各プレゼンテーションのタイトルをクリックすると動画（YouTube）が視聴できます

20:00 ～	たね部屋 オープニング		
	かせ部屋	みず部屋	たね部屋 おしゃべり部屋
20:30 ～	誰にでも「伝わりやすい」 日本語の話  栗山 こまよ (チャリティーショップ道)	コケと人をつながたい  鵜沢 美穂子 (ミュージアムパーク 茨城県自然博物館)	
21:00 ～	今、あなたができること。 うつ病予防でより良い社会へ  時任 春江 (うつ病にさせないための コンソーシアム)	三日坊主でも 本が書ける！ AI に本を書かせるコツ  大間 哲 (法政大学 キャリアデザイン学部 講師)	
21:30 ～	高校と高専 似て非なるパラレルワールド  海上 尚美 (北九州工業高等専門学校)	無事ともっち本出版です  今村 美都 (medica project)	
22:00 ～	たね部屋 以降、交流会 (自由参加)		

■メインイベント＜2025 年 2 月 22 日（土）9:45～18:00＞

全体でオープニング（開会式）を行った後、4つの会場（部屋）に分かれて、

ツナギストや参加者による 10 分プレゼンテーションを行った。

その後は自由参加の交流会を行い、メインイベントを前に参加者間の交流を促した。

※各プログラムのタイトルをクリックすると動画（YouTube）が視聴できます

時間					
9:45 ～ 10:40	たね部屋 全体会				
	かぜ部屋	みず部屋	りす部屋	とり部屋	たね部屋 おしゃべり部屋
11:00 ～ 12:00	土が教えてくれる 人の生きる道 ～足下の 自然界に学ぶ～  永田 和史 (里山野菜株式会社)	「ご機嫌力～元人力 車俵夫が教える、笑 顔のチカラ～」  榊原 よし (ふえふきマルシェ 実行委員会)	『人生前向いてナン ボ。～夢実現力を高め る方法(仮)～』  木戸 俊介 (NPO 法人 須磨ユニバーサルビーチ プロジェクト代表理事)	「ショート ABD   気軽にやってみようー 新感覚読書手法 ABD」  ニシイ サチコ (ABD ディレクター ジェネレーター) 岡部 禅 (Google マップ・ アドバイザー)	
12:00 ～ 12:45	おひる休暇				
13:00 ～ 14:00	日本酒瞑想 アニミ酒ム  春木 萌花 (日本酒を語る学生)	地域と人々を 科学でつなぐには？  羽村 太雅 (手作り科学館 Exedra 館長)	あなたのお部屋の あかり診断  橋田 裕司 (あかりバンク創設者)	2 度目の世界一周 クルーズに参加して 感じた事  三原 重央 (旅する先生)	
14:30 ～ 15:30	「触れるだけでほ ぐれる！筋膜リリ ース ×呼吸で心身 リセット」  清水 まどり (ヨガ講師)	公務員経験と 診断士視点から語 る森林の可能性  岸本 勇樹 (きしもと中小企業 診断士事務所代表)	医療を医療者から 解放するには？  吉岡 春奈 (国際医療 NGO ジャパンハート理事長)	体験！ 「オコアートの世界」  かんだ しんじ (にっぽんお好み焼き協会 お好み焼き検定 「上級ホルダー」)	
16:00 ～ 17:00	文化財 データベースで 遊んでみよう！  松田 佳代 (フリーランス学員)	発想力 UP で 問題解決！ 第一回つなぐ人杯 大喜利大会！  清水 厚志 (Kleeblatt 株式会社)	HOT (ホッと) 一息♪ つなぐお茶会  鈴木 駿輔 榎 優貴子 (キープ協会)		

17:00 ～ 17:15	休憩
17:15 ～ 18:00	脳みそと人脈をシェア・閉会式
20:30 ～ 22:30	以降、交流会（自由参加）

## 人 10分プレゼン概要

前々夜祭<2025年2月16日(日)

要約に関しては Zoom の AI コンパニオンを元に作成しています。

### ●20:30~@Zoom かぜ部屋

#### 【働くを中断し人生と社会を見つめ直すキャリアブレイク】

実施者：北野 貴大（一般社団法人キャリアブレイク研究所代表）

実行委員：梅崎 靖志

##### 要約

北野貴大さんは、キャリアブレイクという文化を広める会社を設立。ファッションビルでの勤務を通じ、売上至上主義への疑問や同僚の心身の不調を目の当たりにし、ヨーロッパのキャリアブレイク文化に共感。小さな宿の運営を始め、立ち止まりたい人々を支援しました。年間1万人が利用するサイトを運営し、企業や自治体とも連携。立ち止まることを「かっこいい文化」として広めていく活動を続けています。

### ●21:00~@Zoom かぜ部屋

#### 【カラダと暮らしの、風通し】

実施者：北原 辰也（はったつやさん）

実行委員：梅崎 靖志

##### 要約

発達支援の専門家である北原辰也さんは、ご自身の経験を通じて、発達障害や心身の不調は、現代の便利な生活が発達を妨げていることが原因かもしれないと話しています。特に、生活習慣や環境を見直して、体や暮らしの「風通し」を良くすることで、成長を後押しできると提案しています。子どもも大人も、自分の成長を信じて挑戦してみることが大切だと伝えています。

### ●21:30~@Zoom かぜ部屋

#### 【社会課題×広報PR会社の10期に渡る社会実験の軌跡】

実施者：こくぼ ひろし（ひとしずく株式会社）

##### 要約

こくぼひろしさんは、社会課題の解決に取り組む人を支援するPRエージェンシー「ひとしずく株式会社」を運営されています。広報支援やプロジェクト開発などを手がけながら、社会貢献と理想的な働き方を大切にされています。コロナ禍を経て、必要な案件に絞り、売上の上限を設けるという新たな方針を採用されています。

●20：30～@Zoom みず部屋

【文化で日本とアフリカを繋ぐ】

実施者：菅谷 久美子（横濱未来堂）  
実行委員：平原 由樹

要約

菅谷久美子さんは、着物デザイナーとして、アフリカの布地を使った「アフリカ着物」を開発し、日本とアフリカの文化つなぐ架け橋となっています。8月に横浜で開催されるアフリカ開発会議（TICAD9）に向けて、「つながるアフリカプロジェクト」（音楽やスポーツ、料理など様々なイベント）を企画中です。菅谷さんの活動は、多様性を尊重し、アフリカと日本の相互理解を深めることを目指しています。

●21：00～@Zoom みず部屋

【「あそぶ」「まなぶ」「つなぐ」きっかけは公園から。】

実施者：飛世 裕香（庭音・お庭カウンセラー・マルシェ）  
実行委員：平川 瑠菜

要約

飛世裕香さんは、富山県魚津市の魚津総合公園で「みどりがつなぐコミュニティづくり」に取り組んでいます。公園内で子育て支援やガーデンづくりなどを通じて、地域の人々がつながる場を作っています。特に、乳幼児の外遊びの機会や地域の遊び場としてのプレーパーク作りに力を入れています。飛世さんの目標は、公園を起点に魚津市を「住みたい、住み続けたい」と思えるような持続可能な街にすることです。持続的な賑わいを創出することの難しさにも直面していると語っています。

●21：30～@Zoom みず部屋

【現役部員が伝える！親しみやすい能楽の世界】

実施者：中西 美緑

要約

中西美緑さんが能楽についてプレゼンテーションを行いました。能楽は600年以上の歴史を持つ日本の伝統芸能で、能と狂言から成ります。日常生活で使われる言葉の多くが能楽に由来していることが紹介されました。中西さんは少しの小道具や能面の表情で織りなす表現力を受け取り手それぞれが「余白」で楽しむことが能楽の魅力だと考えています。能楽は同じ公演を行うわけではなく、一期一会の要素が強いことも紹介されました。

前々夜祭<2025 年 2 月 21 日（金）

●20：30～@Zoom かぜ部屋

【誰にでも「伝わりやすい」日本語の話】

実施者：栗山 こまよ（チャリティーショップ道）

実行委員：岡田 英之

要約

栗山こまよさんは「誰にでも伝わりやすい日本語」について講演を行いました。日本人同士でも日本語のコミュニケーションで誤解が生じやすい状況を、LINE やメールでの経験を交えて説明しました。言葉の解釈の違いや、専門用語、省略された表現などが誤解の原因となることを指摘し、日本語コミュニケーションの難しさと改善の必要性を強調しています。

●21：00～@Zoom かぜ部屋

【今、あなたができること。うつ病予防でより良い社会へ】

実施者：時任 春江（うつ病にさせないためのコンソーシアム）

実行委員：岡田 英之

要約

時任春江さんは、看護師の疲労回復や自殺予防のための事業について説明し、指先でストレスを測定する機器の導入やうつ病予防アドバイザーの育成について述べました。また、うつ病の要因と予防法を解説し、自律神経のバランスを整えることの重要性を強調しています。さらに、命について考える機会として納棺体験を提供しており、参加者の感想や反応を紹介しています。

●21：30～@Zoom かぜ部屋

【高校と高専 似て非なるパラレルワールド】

実施者：海上 尚美（北九州工業高等専門学校）

要約

海上尚美さんは20年間東京で高校教員を務めた後、北九州の高専に転職した経験を共有しました。高校と高専の違いや、高専の特徴（5年制、純学士の称号、就職率や編入学率）について説明しています。また、高専が国内外で注目されている現状や、男女比の偏りなどの課題にも触れました。海上さんは新しい環境で、ものづくりや社会の課題解決に焦点を当てた授業づくりに取り組んでおり、地域のミュージアムとの連携や文化交流を通じた教育活動を模索しています。

●20：30～@Zoom みず部屋  
【コケと人とをつなげたい】

実施者：鵜沢 美穂子（ミュージアムパーク 茨城県自然博物館）

要約

茨城県自然博物館の鵜沢美穂子さんが、苔と人をつなげるための活動について紹介されました。鵜沢さんは高校生の時にゼニゴケに魅了され、苔の研究を始めました。現在は博物館の学芸員として、苔の研究や展示、観察会などを行っています。世界最小の苔や最長の苔など珍しい種類の紹介や、博物館での大規模な苔の企画展の開催、映像制作や書籍の執筆など、様々な方法で苔の魅力を伝える活動をしています。

●21：00～@Zoom みず部屋  
【三日坊主でも 本が書ける！AI に本を書かせるコツ】

実施者：大間 哲（法政大学 キャリアデザイン学部 講師）

要約

大間哲さんは、AI を使えば、三日坊主でも半日で本の原稿を作成できると説明しています。本を書くプロセスの各段階で AI がどのように役立つかを詳しく解説し、テーマ選びから執筆、編集、プロモーションまで AI が支援できることを紹介しました。実際に AI を使って「つなぐ人フォーラム」についての本の目次や章を作成するデモンストレーションを行い、AI との対話を重ねることでより良い本ができると強調されています。

●21：30～@Zoom みず部屋  
【無事ともっち本出版です】

実施者：今村 美都（medica project）

要約

今村美都さんは、【「不」自由で何が悪い】というご自身が出版された本の内容について説明しています。本の主人公は、障害があってもみんなと同じであることを強く訴えたいと考えています。内容に関しては障害者を取り巻く社会的課題について、ユーモアを交えながら楽しく伝えることを意識したそうです。今村さんは、この本の作成を通じて、障害者と健常者の間にある見えない壁について気づきがあり、お互いの思いを伝え合うことの大切さを学んだと述べています。さらに、「健常者」や「障害者」といった言葉の使用について、定義の難しさや制度上の必要性など、複雑な問題があることも指摘されました。



## 人 45 分プログラム概要

要約に関しては Zoom の AI コンパニオンを元に作成しています。

### ●11:00～@Zoom かぜ部屋

#### 【土が教えてくれる人の生きる道～足下の自然界に学ぶ～】

実施者：永田 和史（里山野菜株式会社）

実行委員：平原 由樹

##### 要約

永田和史さんは、土の研究と微生物に特化した学習プログラム「魔法の土プロジェクト」について説明し、土が岩、植物、微生物から成る生きた物質であることを強調されています。永田さんは、地球環境と人間の健康を両立させる目的で設立した会社「里山野菜株式会社」の活動を紹介します。環境問題への関心から土の研究を始めた経緯を語っています。良い土の特徴について参加者と意見交換を行い、土壌の重要性と多様性について議論を深めました。

### ●11:00～@Zoom みず部屋

#### 【ご機嫌力～元人力車俵夫が教える、笑顔のチカラ～】

実施者：榊原 よし（ふえふきマルシェ実行員）

実行委員：高橋 真理子

##### 要約

榊原よしさんは、観光土産品の開発、地域コミュニティ運営、観光協会マネージャー、山梨大使、そして元人力車俵夫という多彩な経歴を持つ方。特に俵夫時代の経験から、「笑顔とコミュニケーションの重要性」を語られました。短い時間に相手を楽しませる会話術「エレベータートーク」や、3m の範囲内での効果的なコミュニケーション術「3M トーク」といった独自のコミュニケーション術を紹介。

また、榊原さんは地域コミュニティ「100 人会議」を主催し、地域活性化に貢献。この取り組みは全国 119 箇所に広がり、多くの人々が交流する場となっています。「これらの活動を通じて、笑顔とコミュニケーションがもたらす力を伝え、人々がよりご機嫌に過ごせる社会を」と語られました。

### ●11:00～@Zoom りす部屋

#### 【人生前向いてナンボ。～夢実現力を高める方法(仮)】

実施者：木戸 俊介（NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト代表理事）

実行委員：吉田 立

##### 要約

須磨ユニバーサルビーチプロジェクト(UBP)は、障害の有無に関わらず誰もが海で遊べるような活動を行っています。木戸さんは、この活動を通じて参加者が「生の感情」を爆発させる機会を提供し、「できない」を「できた！」に変えることを目指しています。

「夢実現力を高めるワークショップ」では、自分の好きなことや得意なことをリストアップし、自分の強みと、自分の夢や目標を掛け合わせ、参加者それぞれの使命を見つけました。

木戸さんは、夢に日付を設定すること、目の前の一步を続けることの重要性を強調し、それによって今日やるべきことが明確になると説明しています。



### ●11:00～@Zoom とり部屋

#### 【「ショート ABD | 気軽にやってみようー新感覚読書手法 ABD」】

実施者：ニシイサチコ（ABD ディレクター ジェネレーター）

岡部 禅（Google マップ・アドバイザー）

実行委員：岡田 英之

#### 要約

ニシイサチコさんと岡部禅さんにより、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）という読書手法を体験しました。ABD は、参加者が分担してテキストを読み、それぞれの担当部分を要約して共有し、最後に全体で話し合うことで読解を深める手法です。今回の題材はドナルド・トランプ大統領の就任演説で、参加者はテキストを分担して読み、要約を作成し、共有・対話を通じて内容を理解しました。ABD を行うことで、参加者が主体的に学び、意見交換が活発に行われました。特に、要約の共有後の対話では、新たな気づきや学びが生まれる場面が多く見られました。

### ●13:00～@Zoom かぜ部屋

#### 【日本酒瞑想 アニミ酒ム】

実施者：春木 萌花（日本酒を語る学生）

実行委員：松田 佳代

#### 要約

春木萌花さんは日本酒の製造工程について詳しく説明し、精米から洗米、蒸米、麴作り、発酵、瓶詰めまでの一連の工程を映像とともに解説しました。その後、日本酒の歴史について話し合い、縄文時代晩期（約 2000 年以上前）から日本で酒造りが行われていたことを共有しました。

日本酒瞑想のセッションでは、参加者は目を閉じて地球を見渡すイメージワークを行い、46 億年前からの地球の歴史、日本列島での縄文文化、稲作の伝来、そして日本酒の誕生までの歴史を振り返りました。参加者は各自用意した日本酒や水を手に取り、その製造の歴史と文化的な意義を感じながら乾杯。最後に、他の種類のお酒での試みへの興味や、日本の水の質の重要性についても言及されています。

### ●13:00～@Zoom みず部屋

#### 【地域と人々を科学でつなぐには？】

実施者：羽村 太雅（手作り科学館 Exedra 館長）

実行委員：山下 美夏

#### 要約

羽村太雅さんは、科学と社会をつなげる重要性について話されています。羽村氏は、大学時代から「地球外生命に触れること」を夢見て研究を始め、特に土星の衛星エンセラダスでの研究を行いました。しかし、研究を進める中で、「科学の成果をより多くの人々に伝えたい!」と考えようになり、科学コミュニケーションに関心を持ちました。

科学コミュニケーションとは、科学者と社会をつなぐ活動であり、1990 年代後半から日本で盛んに行われてきました。特に「サイエンスカフェ」という取り組みが紹介され、これはカジュアルな場で専門家と市民が自由に意見交換するイベントです。科学的な知識を一般の人々に伝え、社会問題に対する理解を深めることが目的とされています。

最後に、科学コミュニケーションが重要な役割を果たす場面として、社会問題への関与が挙げられ、科学者と市民が共に問題解決に向けて協力するための意識が高まっていることを強調しました。しかし、まだ参加者と話し手の間に壁があると感じており、今後の改善点についても触れています。

### ●13:00～@Zoom リす部屋 【あなたのお部屋のあかり診断】

実施者：橋田 裕司（あかりバンク創設者）  
実行委員：吉田 立

#### 要約

橋田裕司さんが照明の専門家として、照明が人の心理と生活に与える影響について説明しました。特に介護現場での照明の重要性を強調し、天井の直接照明から間接照明への切り替えが介護のしやすさと被介護者の快適性を向上させることを強調しました。

また、各地に出向いて照明の設置や講座を行う「照明塾」と、いろんな人が作ったあかりを「こどもホスピス」などに届ける、「あかりバンク」の活動についても共有しました。学校での教材としての活用や、オンラインワークショップの実施など、地域に根ざした活動の可能性についても語っています。

### ●13:00～@Zoom とり部屋 【2度目の世界一周クルーズに参加して感じた事】

実施者：三原 重央（旅する先生）  
実行委員：岡田 英之

#### 要約

三原重央氏は自身の合気道や大阪市帆船での経験を通じて、他者とのエネルギー交流や協力が重要であることを学んだことを共有しました。さらに、デンマークのフォルケホイスコーレなど、異文化で得た学びも紹介されました。フォルケホイスコーレは成人教育機関で「人生のための学校」と呼ばれています。東ドイツの子ども食堂や岡山・鳥取の自然農活動を通じて、持続可能な社会の課題解決の重要性も訴え、三原重央氏の合気道の精神、自然農、組織論、教育など多岐にわたり、他者とのつながりや協力、自らの行動によって未来を切り開くことの大切さが強調されました。

### ●14:30～@Zoom かぜ部屋 【触れるだけでほぐれる！ 筋膜リリース × 呼吸で心身リセット】

実施者：清水 まどり（yoga espacio）  
実行委員：梅崎 靖志

#### 要約

清水まどりさんは筋膜の重要性と、それが体の健康に与える影響について説明し、筋膜が硬くなることで起こる症状（朝の体の硬さ、肩こり、腰痛、呼吸の浅さなど）を解説しています。筋膜は筋肉や内臓、骨を包み込む薄い膜状の組織で、全身をつなげる「第二の骨格」として機能し、その柔軟性を保つことが体の健康維持に重要であることを強調しています。そして、筋膜をリリースするためのストレッチや呼吸法を実践的に指導しています。

筋膜リリースのレッスンでは、優しく体をほぐす方法を学び、特に肩や首の部分に焦点を当てた実践が行われ、体の可動域の改善や呼吸の深まりを実感しました。最後に筋膜リリースについての質問では、強くほぐすのではなく、優しくマッサージすることの重要性を強調されました。

### ●14:30～@Zoom みず部屋

#### 【公務員経験と診断士視点から語る森林の可能性】

実施者：岸本 勇樹（きしもと中小企業診断士事務所代表）

実行委員：清水 厚志

##### 要約

岸本勇樹氏は、和歌山県で20年間森林行政に従事した後、中小企業診断士として独立。経済的な視点を取り入れた森林の可能性を追求している方です。幼少期、自然に触れる機会が多かった影響で、大学では森林科学を専攻されました。卒業後は食品会社に勤めましたが、その後公務員に転職。和歌山県庁で森林行政に携わり、その後、中小企業診断士として森林経営を支援しています。公務員としての技術職（林学職）としての経験と、中小企業診断士としての経済的視点を融合させ、林業経営支援を行っています。森林と経済の両立について深い洞察を持ち、今後もその専門知識を活かして、林業の活性化を目指しています。

### ●14:30～@Zoom りす部屋

#### 【医療を医療者から解放するには？】

実施者：吉岡 春菜（国際医療 NGO ジャパンハート理事長）

実行委員：吉田 立

##### 要約

吉岡春菜さんは、ジャパンハートという団体で小児科医として活動しており、ミャンマー、カンボジア、ラオスなどで医療支援を行っています。特に小児がんの治療に力を入れている吉岡さんは、医療は単なる治療ではなく、「人生の質を向上させること」が重要だと考えており、「たとえ死んでも心が救われている医療」として、患者だけでなく、亡くなってしまった後の家族への配慮も大切にしています。吉岡さんはカンボジアでは病院を運営し、現地の医療者の育成も行っているほか、日本国内では、小児がん患者の願いを叶える「スマイルスマイルプロジェクト」を通じて、終末期の子どもたちとその家族の支援をする活動に取り組んでいます。

### ●14:30～@Zoom とり部屋

#### 【体験！「オコアートの世界」】

実施者：かんだ しんじ（にっぽんお好み焼き協会 お好み焼き検定「上級ホルダー」）

実行委員：岡田 英之

##### 要約

かんだしんじ氏による「オコアート」は、お好み焼きをキャンバスに見立てたアートで、インスタグラムで公開されています。ラテアートのお好み焼き版とも言えるこのアートは、マヨネーズと爪楊枝を使って様々な絵柄を描くものです。オコアートの基本的な技法は、マヨネーズを落とした後、爪楊枝で引っ張って絵を描く方法で、ハート型やパラソル型などの模様を作ることができます。参加者は自分の作品を作りながら、楽しさと嬉しさで笑顔に包まれた時間を過ごしていました。

●16:00～@Zoom かぜ部屋  
【文化財データベースで遊んでみよう！】

実施者：松田 佳代

要約

松田佳代さんは、ジャパンサーチや国会図書館のデジタルコレクション、そして「e 国法」などのデータベースを取り上げました。ジャパンサーチでは、国立博物館や地方の資料館のデータを検索でき、商用利用可能な画像も多く提供されています。国会図書館のデジタルコレクションは、古典的な資料や江戸時代の書籍、浮世絵などが無料で利用でき、著作権切れのものは自由に使うことができます。

また、「e 国法」では、国宝や重要文化財を高解像度で閲覧でき、詳細まで確認できるのが特徴です。デジタルデータの利点として、物理的に展示されていないものも鑑賞でき、細部まで楽しむことができます。松田さんは、デジタル資料を使うことで、展示物では得られない深い理解が得られる点を強調しました。

●16:00～@Zoom みず部屋  
【発想力 UP で問題解決！ 第一回つなぐ人杯大喜利大会！】

実施者：清水 厚志

要約

清水厚志氏は「発想力 UP で問題解決！ 第一回つなぐ人杯大喜利大会」を開催し、創造力を活かした問題解決を目指しました。リラックスした雰囲気で行われ、参加者は「大喜利」を通じて創造的思考を養いました。

清水氏は中小企業診断士やラジオパーソナリティとして活躍し、ワークショップ制作やアイスブレイクの企画も行っています。ワークショップに興味を持ったのは「つなぐ人フォーラム」への参加がきっかけで、以来様々なユニークなワークショップを手掛けてきました。

中でも、模擬的に「切られて死ぬ」という体験を通じてエンディングノートを学ぶワークショップや、着ぐるみと漫才をするというユニークな企画が印象的でした。また、「スーパー自治会活動」を紹介し、地域社会の問題解決にもユーモアを活用することを提案しました。

●16:00～@Zoom りす部屋  
【HOT（ホッと）一息♪つなぐお茶会】

実施者：榎 優貴子、鈴木 駿輔（キープ協会環境教育事業部）

要約

「ほっと一息つなぐお茶会」では、4 時間目までの疲れを癒すため、みかんの皮を使ったお茶作りを行いました。みかんの皮を細かく切って煮出し、1-2 分沸騰させた後 5 分蒸らすという簡単な方法でお茶を作ります。煮だす間、参加者たちはみかんの皮の剥き方などについて話し合ったり、清里の森の映像を観たりして、交流を楽しみました。

後半では、キープ協会 榎さんが森の香りについて説明し、特にモミの木の香りの特徴と活用法を共有しました。また、キープ協会が実践している、モミの葉を使った香り袋やエアフレッシュナーの作り方を紹介し、「自分で癒す」をテーマにした、プログラム例を紹介しました。

嗅覚は感情や記憶に直接結びつく特別な感覚であることも説明されました。

■別紙

- ・決算報告書
- ・参加者アンケート

第 17 回つながり人フォーラム 実施報告書  
2025 年 3 月発行

編集・発行／公益財団法人キープ協会

第 17 回つながり人フォーラム事務局（公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 内）

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545  
TEL 0551-48-3795 FAX 0551-48-3228 E-mail eventee@keep.or.jp

